

## 既往帝切後分娩について

### 【TOLAC、VBAC とは】

以前に帝王切開で分娩をしたことがあって妊娠した場合を既往帝切後妊娠と呼びます。

既往帝切後妊娠で経膈分娩を目指すことを TOLAC（既往帝切後妊娠の経膈分娩トライアル）と言います。経膈分娩が成功した場合を VBAC（既往帝切後経膈分娩）と言います。

既往帝切後妊娠では、経膈分娩の場合でも再び帝王切開する場合でも、それぞれに危険性があるため、十分に理解をしたうえで分娩方法を選択することが必要です。

大変重要なことですから、この説明書をよくお読みになり、ご家族とも十分に話し合ってから方針を決定なさってください。

TOLAC を選択した場合も、いつでも帝王切開に切り替えられる準備を整えたうえで分娩に臨み、必要があれば緊急帝王切開を行います。

### ●既往帝切後経膈分娩を選択できる場合：

- ・今までの帝王切開が 1 回だけであり、その他に子宮の手術（子宮筋腫摘出術など）を受けていないこと
- ・以前の帝王切開で子宮の切開が子宮下部横切開であり、術後の経過に問題がなかったことが確認できること（手術をした病院に問い合わせることがあります。）
- ・母体の骨盤が十分に広く、今回の妊娠で双胎や骨盤位でないこと
- ・既往帝切後経膈分娩に関する危険性を十分に理解していること

### ●帝王切開が必要な場合：

- ・2 回以上帝王切開をしている場合や、帝王切開のほかに子宮筋腫摘出術など子宮の手術を行ったことがある場合
  - ・前回の手術に関する情報が不明である場合、前回の手術後に今後の分娩は帝王切開が必要と言われた場合
  - ・今回の妊娠が頭位でない場合、双胎など
  - ・今回の妊娠経過中、超音波で以前の子宮切開創に薄い部分が認められる場合
- その他、妊娠・分娩経過で異常がある場合は帝王切開を行います。

### 【TOLAC におけるデメリット】

●子宮破裂：子宮の傷が分娩時に避ける危険性が TOLAC では 0.4～0.5% で予定帝王切開に比べて 2 倍とされています\*1。

症状として、子宮の下の方に限局した陣痛ではない痛みが生じることがあり、切迫子宮破裂として帝王切開に切り替えることがあります。

子宮破裂は程度にもよりますが、重症の場合胎児が亡くなったり、母体の大出血が生じて子宮摘出が必要になったりすることがあります。

分娩後に子宮破裂が分かることもあり、分娩後しばらくは注意が必要です。

●破水後や予定日を過ぎてから、陣痛が来ない場合に陣痛促進剤で陣痛を起こす(分娩誘発)と、子宮破裂の危険性が高くなるため、使用できません。その場合は帝王切開をします。

分娩が進行しているのに陣痛が弱い場合の陣痛促進剤使用(分娩促進)は、十分に注意して行うことがあります。

●新生児仮死は2.2%、赤ちゃんの死亡率は0.5~0.6% (予定帝王切開の約1.7倍)という報告\*1があります。

#### 【VBACのメリット、帝王切開の危険性】

●経膈分娩が成功すれば、帝王切開に伴う合併症の危険性は回避されます。

1回目の手術に比べ、2回目以降の手術では癒着の影響などにより出血や他臓器損傷の危険性が高くなったり、手術時間が延長したりする可能性があります。

●TOLACでは帝王切開に比べて産褥熱は0.6~0.7倍、輸血は0.6倍と減少します\*1。

●1回でも帝王切開をするとその後の妊娠で前置胎盤となる危険性が2.6倍\*2になり、帝王切開の回数が多いほど危険性はより高くなります。

また、前置胎盤において癒着胎盤が発生する頻度も帝王切開の回数が多いほど上昇します。(2回では35~47%、4回以上では50~67%\*3)

●帝王切開の回数が多くなると合併症の危険性が高くなるため、一般的には帝王切開は3回くらいが限度と考えられています。

[\*1:産婦人科診療ガイドライン・産科編2014(日本産科婦人科学会)、\*2:Am. J Ob. Gyn. 1997 Nov、\*3:産科と婦人科2007年2号より]